

クラス担任のための Career Guidance

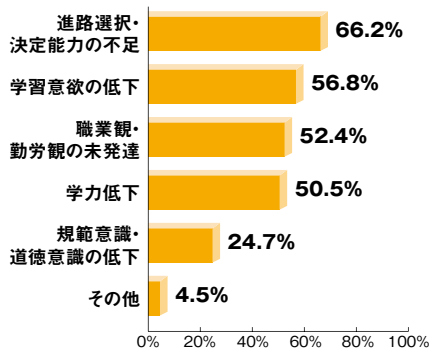
2011 >> VOL.8

「キャリアガイダンス 特別編集」

RECRUIT

進路指導の難しさの要因

(進路指導は難しいと感じている者 / 複数回答)



出典)リクルート
「2010年高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」

主体的に進路を決められない生徒が多いと嘆く教員が多い。どうすれば自分で選択肢を考え検討できるようになるのか。ヒントを紹介する。

「決められない生徒に伝えたい 最善の選択肢のつくり方」

6割の進路指導主事が悩む 生徒の決定能力の不足

小社が行ったアンケート調査によれば、進路指導の難しさの要因として、全国の進路指導主事が悩んでいるのは「生徒の進路選択決定能力の不足」だった(左グラフ参照)。自由回答欄にも「生活の中で情報を収集し、選択し、決定するという主体的行動がとれないことが多い」「保護者、教師の指示待ちが多くなっている」などのコメントが並んでいる。

情報を収集するだけでなく、活用し、自分なりの進路を見出す力をどう育てればよいのか、そのヒントを紹介したい。まず、次のクイズについて考えていただきたい。これは企業の採用面接で実際に問われた質問とこのことである。

- ① 危篤らしい老婦人
- ② 以前あなたの命を救ってくれた旧友
- ③ 夢にまで見た完璧なパートナー

暴風雨の中で車を運転していて、バスの停留所に差し掛かった時、3人の人がバスを待っているのが見えた。

あなたの車にはあと二人しか乗せられない。誰を乗せるか。

おそらく多くの人が「老婦人」と答えるのではないだろうか。しかし、採用された人の回答はこうだったという。

「私なら、旧友に、自分の車を使ってくれ、私を乗せてください。その代わりに、私が老婦人を病院まで連れて行ってあげるように依頼します。そして私は、夢のパートナーと一緒にバスを待ちます」

これなら老婦人を助け、パートナーとの出会いを逃さず、旧友に恩を返せる。

「創造的な選択肢」が 進路の悩みを解決する

この例のように目的は何かを明確にし、AかBかの問いに対してCの可能性も検討するなど、自分にとって最善の選択肢をするためのさまざまな考え方や方法を、(株)アーキタイプ・チョイスのなかで紹介している。先述のクイズも同書の冒頭に登場するものである。

この思考法は、進路決定にも応用できそう。例えば、親が勧める地元のA大

学か、本人が興味を持っている都会のB大学かで迷っているという場合、まず両方の目的を問い直す。A大学なら、①親の経済的な負担を軽くできる。またB大学なら、②インターンシップに参加しやすい、という目的を叶えられたいとする。

ここで元々の選択肢をいったん忘れて、目的だけを考え直す。最も重要な目的は？ 目的を叶える他のやり方はないか？ など。すると、②を通じて納得のいく就活をすることが、長期的には①の目的にも叶うのでB大がよい、あるいは②が目的であればA大でも道はある、といった発見があるだろう。またC大という新しい選択肢が浮かぶかもしれない。大事なこと、目新しい何かを探し続けるより、目的に立ち戻ることなのだ。

目的から選択肢を考える FEELのリスト

AかBかの選択肢も挙げられない場合は、「情報誌や大学案内などを眺め、「この大学に行ったらどうなんだろう」と具体的に想像したり誰かに話したりすると自分の価値観が見えてくる」と堀内氏。さらに「クリエイティブ・チョイス」では、

「WANT」と「FEEL」のリスト

①

WANT

- ・アルバイト
- ・語学クラス

紙の真ん中に縦に線を引いて、左半分に「WANT」、つまり欲しいものややりたいことを書く。
例) アルバイトがしたい、大学で語学クラスを受けたいなど

②

WANT

- ・アルバイト
- ・語学クラス

FEEL

- ・社会を見て…
- ・外国人と…

右半分に「FEEL」、つまり「WANT」が手に入った時に感じるであろうことを書く。
例) アルバイト→社会を見て成長できる
語学クラス→英語力をつけて外国人と交流できれば楽しい

③

FEEL

- ・社会を見て…
- ・外国人と…

紙を真ん中で切り、左の「WANT」を捨てる。

④

WANT

?

FEEL

- ・社会を見て…
- ・外国人と…

残った「FEEL」を眺め、そこから選択肢を考え直す。「社会を見て成長」「外国人と交流」というFEELだけを見ると、最初に考えていたもの以外にもたくさん手段が思い浮かぶはず。そこから大学・学部を検討する。



「クリエイティブ・チョイス」(日本実業出版社) 堀内浩二氏

(株)アーキタイプ代表。グロービス講師。知・情・意のバランスを保ち、個人の意志決定力を高める研修・教育事業に注力している。小学生と中学生の2児の父でもある。

目的に立ち戻って選択肢を考える練習として、FEELとWANTのリストを紹介している(左コラム参照)。このワークのように目的と手段の関係をじっくり考えることで、自分に合った選択肢をつくり出す底力が身につく。

選択する力は、進学のみならず、人生のあらゆる場面で役に立つ。また、選択の前提となる情報の活用方法を育てる方法についても、甲南高校の図書館を中心としたプログラム(右下コラム参照)など、全国でさまざまな取り組みが行われている。ぜひ生徒たちに生かせるような、最善の選択肢のつくり方を身につけさせてあげたい。

図書館がリードするテーマ別研究で 情報活用能力を育成する

〔兵庫・私立甲南高校〕

甲南高校・中学校では、図書館を中心に据えた情報活用能力の育成を中高一貫で行っている。中学ではまず、図鑑を使う「植物調べ」、情報カードを使って情報整理を行う「県調べ」など、情報収集・整理を学び、次に自分の意見を必要とするディベートや新聞づくりに挑戦する。さらに自分がなりた職業や適性検査の結果で出た職業について調べて発表。最後に「働くということ」をテーマに論文形式でレポートを書く。これを受けて高校の総合的な学習の時間では、校外での体験を含めて1年間かけて探究し、調べた内容を発表して、参加者と意見を交わす、「E-Study」に取り組む。中学高校にわたり、職業や学問について自分でテーマをみつけて研究、発表する経験を繰り返した結果として明確な進路目標を持つ生徒が増えたという。

(「キャリアガイダンス」No.25掲載)

同校の情報活用教育の詳細は WEBサイトでも公開されている

>> POINT

- 図書館に授業ができるスペースを設けて拠点に
- 情報収集・整理、研究、まとめ、発表と順に学習
- 調べ物だけでなくフィールドワークを組み込む



<http://www.konan.ed.jp/lib/literacy/>

※実践の詳細は「キャリアガイダンス.net」でお読みいただけます。サイト右上の記事検索ボックスで「甲南高校」と入力し、検索してください。

「学びたい」を、地球の未来のために。

昨年の実績は⇒進学ネット>みんなのサクラを咲かせよう <http://shingakunet.com/rnet/eco/>

みんなの「サクラ」を咲かせます

誰もが主体的に学び成長し、自分の未来にワクワクしている。そんな社会を実現することがリクルート 進学カンパニーのビジョンです。高校生が未来に向けて踏み出す一歩への応援の気持ちとしてサクラの植林や保護活動を行う(財)日本さくらの会と協力し高校と地域社会にサクラの苗木をお贈りしています。

詳しくは貴校スタッフまでお問い合わせ先: 0120-069-096